

東北半導体・エレクトロニクスデザイン研究会に大いに期待しています

長引く新型コロナの感染とロシアのウクライナ侵攻により政治経済情勢が激変する中、企業は事業の継続と成長のために、新たな戦略を実行し、様々な活動を展開しています。その過程で、産業界が直面した課題の一つが、世界的な半導体の供給不足です。

人々の日常生活や企業の事業活動の多くがデジタル化された現代において、半導体は単なる工業製品ではなく、まさに「産業のコメ」であり、経済活動と豊かな生活を実現する中核的な製品です。半導体エレクトロニクス技術・産業の発展は、日本の産業の成長と社会基盤の強化に直結します。

我が国では、九州地方に半導体生産拠点や関連産業が多く集まり、日本のシリコンアイランドと称されています。しかるに東北地方は、自動車部品や電子部品産業の集積地であり、エレクトロニクス研究開発の先進地域でありながら、半導体については、九州に後れを取っていました。この度、東北経済産業局の呼び掛けで、半導体エレクトロニクスに関連する産学官が一堂に結集することは、東北出身の一人としても、大変喜ばしく、その活動が実りあることを心より願っています。

本研究会には、産学のスペシャリストが集結されていますが、皆さまと共有したいことが二つあります。

一つは言うまでもないことですが、産学官連携の重要性です。私は日本の半導体産業は今、衰退への瀬戸際にあると考えています。残念ながら規模や資金力において、日本企業が単独で外国企業に対抗することは困難です。そのためには、従来とは発想を変えた産学官の連携や業界を越えた協業が必要です。

もう一つは、半導体エレクトロニクスの技術進歩は、我々が考えていたより、急速に進んでおり、これからも続くであろうことです。そして、東北の産業界について言えば、そのスピード感は更に劣後していたと認識すべきでしょう。

今回、研究会設立にご尽力いただいた東北経済産業局にも、そのような危機感を持ちながら、局長のリーダーシップの下、産学官の連携を迅速に進めて頂きたいと思えます。

本研究会の活動は、東北地方でスタートするものですが、その役割は単に地域の半導体エレクトロニクス産業の振興にとどまるものではありません。その成果が、半導体エレクトロニクス製品を通じて、日本のDX発展に貢献し、デジタル技術による新しい社会の構築、産業構造の変革に寄与するものと大いに期待しています。

2022年7月4日

中鉢良治

(産業技術総合研究所 最高顧問)